

## 現場研修事業の概要

### 1. 3.11 東日本大震災 遠野市後方支援資料館【3.11 伝承ロード】

…………… 岩手県遠野市

遠野市は、東日本大震災において官民一体で取り組んだ後方支援活動について、関係資料を展示する仮設展示場として、平成 27 年 3 月 14 日に資料館を開設した。

その後、震災から 10 年を迎えるにあたり、震災遺産の展示や映像コーナーを設けて内装を一新し、令和 3 年 3 月 7 日にリニューアルし常設化した。遠野市が取り組んだ沿岸被災地後方支援活動は、災害支援の先進的事例として、多くの人が視察に訪れている。



### 2. 鶉住居川水門・防潮堤

…………… 岩手県釜石市

東日本大震災で津波の直撃を受けた釜石市の鶉住居川河口に新たに建設された「鶉住居川水門」は、延長 236 メートル、TP +14.5 メートルで設計され、深い所では 30 メートル以上にも及ぶ鋼鉄製の基礎杭を 1,100 本も打ち込み、支えている。

水門は津波を受け止める 5 つのカーテンウォールとゲートで構成され、上部に 4 つの機械室が置かれており、遠隔操作で開閉する。

一方、同水門と一体で津波防護機能を発揮する片岸防潮堤は延長 818 メートルで、堤体の高さは水門と同じく 14.5 メートルとなっている。東日本大震災の津波で旧防潮堤が壊れた教訓から、より粘り強い工法が採用され、堤体上部には高さ 1.1 メートルの柵が設置されており、完成後は散策路としても活用されている。



### 3. 釜石鶉住居復興スタジアム

…………… 岩手県釜石市

釜石市は、アジアで初開催されたラグビーワールドカップ 2019™ 日本大会の開催都市に選ばれ、市の復興のシンボルとして、被災した市立鶉住居小学校・市立釜石東中学校の跡地に『釜石鶉住居復興スタジアム』を新たに整備した。

震災の際、手に手をとって逃げて助かった子供たちの率先避難行動は、世界中に広く紹介されたことから、新スタジアムは「震災の記憶と防災の知恵」を次世代に伝えるスタジアムを目指している。



#### 4. 高田松原津波復興祈念公園及び東日本大震災津波伝承館（いわてTSUNAMIメモリアル）

##### 【3.11伝承ロード】

…………… 岩手県陸前高田市

高田松原津波復興祈念公園の国営追悼・祈念施設は、東日本大震災の犠牲者への追悼と鎮魂、震災の教訓の伝承、復興への意志発信の場として整備された。

広田湾から津波がさかのぼった気仙川へと至る「祈りの軸」を中心に、7万本の松のうち1本だけ残った「奇跡の1本松」、重点道の駅として復旧された道の駅「高田松原」、震災遺構「タピック45」、海岸防潮堤等と一体となった空間として、追悼の広場等が整備され、令和3年12月26日に全面開園となった。



東日本大震災津波伝承館は、先人の英知に学び、東日本大震災津波の事実と教訓を世界中の人々と共有し、自然災害に強い社会を一緒に実現することを目指している。館内は4つのゾーンからなり、津波災害を歴史的・科学的視点からひもとくことで、古来、育まれてきた知恵や技術、文化を見つめ直し、自然とともに暮らすということを改めて考える。

そして、被災した実際の物、被災の現場をとらえた写真、被災者の声、記録などを通して、東日本大震災津波の事実を見つめるとともに、逃げる、助ける、支えるなど、東日本大震災津波の時の人々の行動をひもとくことで、命を守るための教訓を共有する。

さらに、国内外からの多くの支援に対する感謝の気持ちとともに、東日本大震災津波を乗り越えて前へと進んでいく被災地の姿を伝えている。



##### 【3.11伝承ロード】の取組について

2011年3月11日に発生した東日本大震災により、東日本の太平洋沿岸500kmにも及ぶ広い範囲が甚大な被害を受けた。被災地ではそのような被害の実情や貴重な教訓を伝えていくための施設が多く整備されている。しかしながら、それらの震災伝承施設は、複数の県にまたがる広大なエリアに数多く点在し、これらの情報を集め限られた時間で巡ることは容易なことではない。そのため、目的や時間に応じて効率的に施設を訪問できるように、伝承施設情報を分類整理して提供し、案内マップや標識を設置しネットワーク化することとしている。

このように、震災伝承施設をネットワーク化する「3.11伝承ロード」は、「震災伝承のプラットフォーム」であり、地域の防災力の向上と被災地の地域復興を目指すものである。